

# 施策評価シート（平成30年度実績評価）

## ◎ 施策の基本情報

総合計画 中期 プラン	政策No.	5-2	政策名	持続可能で健全な 財政運営	政策の 目指す姿	財政を健全に維持しています	施策 主管課	契約管財課	施策主管 課長名	伊藤 徳明	
	施策No.	3	施策名	市有財産の適正な 管理	施策の 目指す姿	市有財産が良好に維持管理 されています	関係課名				
	現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大量の市有財産の効率的な管理や有効活用を推進するためには、長期的な視点をもって更新・統廃合・長寿命化等を計画し、財政負担の軽減・平準化を図る必要があります。</li> <li>・未利用市有財産について、遊休土地の貸付や売却を進めるなど有効活用を図る必要があります。</li> <li>・市有林について、適正な保全管理と有効活用を図っていく必要があります。</li> </ul>									

## ◎ 前年度の評価の振り返り

### （前年度評価時の今後の方向性）

・実施計画編策定に関わる部長会議のほか、契約管財課・財政課・秘書政策課合同での担当者説明会を開催する等、部・課を横断した取り組みを行っており、今後、契約管財課が作成する「施設の方針(案)」に基づき、施設所管課において施設の点検や保全計画の作成を進め、平成31年度当初予算の維持保全経費の調整・要求を行う。また、総合計画第2期中期プラン等の投資（ハード事業）計画との事業調整を図り、長寿命化を行う施設については、契約管財課が劣化調査を実施した上で、実施計画編に掲載する事業について検討を行う。

### （反映状況）

・計画策定に向けて担当者説明会や公共施設マネジメント研修会を開催し、職員意識の醸成や組織全体での横断的な検討を行い、新市建設計画等の関連計画や各施設所管課が策定する個別施設計画との調整を図りながら、実施計画編(素案)の策定に取り組んだ。また、公共施設の補修や修繕に要する保全経費の全体最適化を図るため、歳出予算の経費区分に「維持保全経費」を新設した。

## 1 施策の目指す姿の実現に向けた主な取組

### (1)花巻市公共施設マネジメント計画の推進

○花巻市公共施設マネジメント計画(実施計画編)の策定および推進

- ・外部からアドバイザーを招聘しつつ、実施計画編の策定にかかる内部調整や協議を進め、素案の策定に取り組んだ。

### (2)市有財産の有効活用

○未利用市有財産の売却等、有効活用の促進

- ・市有地公募件数10か所のうち7か所を売却した。(2095.89㎡ 37,980千円)

○庁舎改修計画に基づく照明設備等の改修

・本庁舎本館の老朽化した受電盤及び電灯配電盤の改修(18,306千円)、電話交換機の更新(7,201千円)、給排水設備の改修にかかる実施設計(4,428千円)を行った。

- ・本庁舎新館エレベーターの全面改修(28,704千円)を行った。

○市有林の適正な保全管理、有効活用の検討

- ・花巻市分収造林設定条例に基づく分収造林の立木が売却され、部分林設定契約に基づく収益があった。(杉等 61,252本 19,169千円)

## 2 成果指標

成果指標名	成果指標設定の考え方 (なぜ、この指標で成果を測ることにしたのか)	成果指標の測定企画 (どのように実績を把握するのか)	単位	数値 区分	H26	H27	H28	H29	H30	R1
/				目標値						
				実績値						
/				目標値						
				実績値						
/				目標値						
				実績値						

## 3 成果指標の達成状況

達成度	達成状況に関する背景・要因
/	

4 施策を構成する事務事業一覧

番号	事務事業名 事業内容(活動実績)	担当課	施策への貢献度		
			対象 直結度	意図 直結度	成果
1-1	市有財産適正管理事業(公共施設マネジメント計画の推進) 公共施設等の最適な施設保有量・配置を実現するため、公共施設マネジメント計画の基本方針に基づき、実施計画編(素案)の策定を進めた。(400千円)	契約管財課	一致	直結	B
			A		
1-2	市有財産適正管理事業(市有財産売却促進) 測量・分筆登記や地歴調査を行い、未利用市有財産の売却を進めた。(5,495千円) 土地売却(7か所 2095.89㎡ 37,980,000円)	契約管財課	一致	直結	A
			A		
2	庁舎設備等改修事業 本庁の老朽化した受電盤と電灯配電盤の改修及び電話交換機の更新並びに新館エレベーターの改修を実施した。(58,639千円)	契約管財課	一致	直結	B
			A		

5 施策を構成する事務事業の検証

<p>(①市民ニーズや市の関与の必要性が低下した事業、②投入コストのわりに成果が低い事業、③施策への貢献度の低い事業はないか)</p> <p>・</p> <p>(施策の目標を達成するため、さらに成果の向上を図る事業はないか)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市有財産適正管理事業(市有財産売却促進)は、価格の設定や物件の選定によっては売却件数に向上の余地がある。</li> <li>庁舎設備等改修事業は、最新の技術や機器を取り入れることでコストの縮減や効率化の余地がある。</li> </ul> <p>(新たに取り組むべき事業はないか)</p> <p>・</p>
--

6 施策の総合的な評価

<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市有財産(土地)については、不整形地や高低差のある土地、狭隘な土地など単体では売り難い土地も多数あることから、例えば不動産業者等が所有する隣地や近接する土地と一体的な利活用が可能か検討したり売却を行わず賃貸を行うなど、収入の確保を図る工夫が必要である。</li> <li>本庁舎については、公共施設マネジメント計画【基本方針編】において行政系施設に位置付け、長寿命化による維持を基本としていることから、計画的に改修する必要がある。</li> </ul> <p>(今後の方向性)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公共施設マネジメント計画【基本方針編】において「運営の最適化」を基本方針の一つに掲げ、遊休財産や余裕スペースは利活用することを基本としていることから、売却や貸付など市有財産(土地)の利活用を推進していくため、指針となる実施計画編を早期に策定する。</li> <li>本庁舎の長寿命化に向けた計画修繕などを実行あるものとして推進していくため、早期に実施計画編を策定する。また、花巻市まちづくり総合計画中期プランは3年間の計画であるが、より長期的な視点が必要となるハード事業については、公共施設マネジメント計画を基に予算編成などに活用できることから、そのような運用の定着を図る。</li> </ul>
---